

第四期中間活動報告会

REF 第四期中間活動報告会が二月十日(金)織協ビルで行われた。「交通安全分科会」「交通分科会」「県境道路分科会」「水分科会」「地象分科会」の五分科会によるこれまでの活動報告及び新規入会者について報告された。

加藤哲男理事長からの挨拶に始まり、田辺毅氏の司会のもと、各発表時間八分、講評二分の時間内でそれぞれの分科会の発表、講評が行なわれた。報告後には、中村毅氏による総評が行われた。

報告会終了後、会場を移し懇親会が開かれ、終始和やかな雰囲気の中で会員相互の交流が深められた。



第 4 期中間報告会
加藤理事長の挨拶

【交通安全分科会】

発表 嶋田 喜昭
講評 中村 真里

「道路交通の安全性に関する文献調査研究」

日本は、安心・安全といえれば防災が取り上げられがちであるが、日々の生活では、より頻繁に発生する「防犯」や「交通安全」に対するニーズもある。こうした中、その死者数に目を向けると、これまで交通事故で亡くなっている人々は桁違いに多い。つまり、「安心・安全なまちづくり」を目指す際、まず交通安全は考えなければならぬといえる。

本研究では特に道路交通における「交通安全」に着目し、情報技術等が発展してきた最近 20 年間に公表された道路交通の安全性に関する調査研究や事業の文献を調査し、今後実施すべき研究課題や政策等について検討するものである。

文献整理の方法は、学会誌・論文集・雑誌における調査研究文献を整理する場合は、これまでと同様に主たる調査研究の内容に基づいて「段階」と「要因」のマトリクスで分類し、該当箇所に文献番号を記入していく。また、その際、調査研究の対象・視点に応じて、各文献番号の頭に、自動車(◎)、自転車(○)、歩行者(生活者)(□)、乗客・来街者(△)、その他(▲)の記号を付与するが、すべての対象・視点に該当する場合は(◎)を付与することとした。動物を対象とした文献については「その他」に分類することとした。なお、要因において「心理・安全教育」としていたものは、「人間的要因(心理・能力・安全教育)」に改め、人間の能力を扱う研究も該当させるものとした。

【交通分科会】

発表 吉村 朋矩
講評 細谷 宗平

「歩行者・自転車を取り巻く環境に関する研究」

警視庁による平成 27 年度の全交通事故件数は過去 10 年間で約 40% 減少し、自転車関連事故件数についても約 50% 減少している。一方、自転車対歩行者の事故件数はほとんど減少しておらず、横ばい状態である。さらに高校生の自転車乗用中の死傷者数が高学年齢と比べ最も高いことから、高校生の通学路を対象として、自動車や自転車、歩行者の交通量を把握するとともに、自転車利用者の交通法規違反行動の実態、通行位置に関する現地調査を実施し、歩行者・自転車に関連する事故減少に向けた知見を得たいと考えた。

調査は平成 28 年 11 月 30 日に行い、調査対象区間は藤島高校正門前の道路の自転車の通行空間が異なる三か所を実施した。違反行動としては、徐行違反や逆走、自転車通行不可の道路における通行などがみられた。調査箇所によって違反行動に差があり、徐行違反や逆走が多い箇所などがあることが判明した。各調査箇所の全体で見ると、自転車交通量は少ないものの、違反行動の割合が高い箇所や、自転車交通量は多いものの、違反行動の割合が低い箇所があった。

【県境道路分科会】

発表 西谷 光史
講評 清水 健

「人口減少、高齢化、国際化（観光）時代
における県境道路の在り方」

近年の幹線道路網の整備に伴い、縦貫・横断路線が有機的に連絡して広域的な周遊ルートを形成するようになってきた。福井県においては、今後、中部縦貫自動車道や冠山峠道路の更なる整備により、県境部を挟んだルートを選択肢が多様化し、災害時の避難や救援活動、県境部の過疎地域の維持・再生、観光への寄与が期待されている。

このような背景のもとで今期も人口減少、高齢化、国際化（観光時代）における県境道路の在り方、活用方を主要テーマにして活動を行っている。

さらに、県境道路を有する福井県池田町を対象として、現地調査及び池田町行政担当者へのヒアリング調査を実施し、県境道路の特性を詳細に把握するとともに、県境道路沿道地域の課題と道路整備の方向性について明らかにするための基礎的な知見を得ることも目的にしている。ヒアリングの内容は、今後の道路計画↓中部縦貫自動車道の開通は池田町にとって期待するところはあるか、隣県自治体との交流・連携促進・協力体制について、地域の維持、国・県との体制等である。回答の内容は、池田町に期待するところに関しては観光周遊で行き帰りで別の移動経路の選択肢としての利用を期待する意見や、交流・連携に関しては、交流事業の企画、観光案内の企画・地域住民の往来増加可能性が挙げられた。

【水分科会】

発表 嶋田 良和
講評 梅田 祐一

「屋外橋梁博物館へ行こう！
～奥越地域の土木遺産～」

水にまつわるテーマで取り組む中でこれまでは河川自体に着目してきたが、今回は河川を横断する工作物として、橋梁にスポットを当てた。奥越地域の特に関東方面の国道158号には、ダム建設を機に様々な形式の橋梁が架けられている。また、本州四国連絡橋の実験橋として有名な箱ヶ瀬橋にも多くの見学者が訪れている。

今後、中部縦貫自動車路の開通により現道の交通量減が見込まれることを活かして、これらの特色ある橋梁を貴重な土木構造物遺産として後世に伝えていくため、「恐竜博物館」にちなんで「橋梁博物館」としてPRする構想がある。本調査では、その構想を具体的な形にするため、対象橋梁の選定およびその視点場の現地調査ととりまとめを行った。

今後は、異なる上部構造を持ち見た目にも楽しめるよう選定したこの5橋（霧降橋（大野市湯上）、大谷橋（大野市大谷）、箱ヶ瀬橋（大野市箱ヶ瀬）、面谷橋（大野市大谷）、勝山橋（勝山市遅羽町千代田））をメインとしながら、文献等を中心に他の橋梁や時代背景についても調査を進め、より厚みのある屋外橋梁博物館構想に向けてとりまとめを進めていく予定である。

【地象分科会】

発表 小林 孝彰
講評 千谷 俊之

「福井の地名から学ぶ防災・減災について」

大雨などの防災・減災を考えるにあたって、気象と並ぶ重要な要素として地形があげられる。河川に近ければ、増水・越水対策、窪んだ土地であれば、浸水被害対策、山に面しているのであれば、土砂災害などの対策が必要になってくる。地形を理解することは、対策を講ずる上で、必要な知識となることは言うまでもない。そのような地形を読み解くにあたって、切り離せないものが、地名である。地名はその地域が、過去にどのような地形であったのか、どのような災害が起こり得るのかといった、災害リスクを把握するのに有用な要素だといえる。昨年度は、福井市街地の西、日野川と足羽川に挟まれた地域を調査した。輪中があったとされる久喜津町、足羽川が流れていた渡町等、現地調査を踏まえ、地名と地形の繋がりが見て取ることができた。今年度も引き続き、現地調査を通して、その地名を考察していく。

今回の現地調査地は、10月16日に実施し、福井市の東に位置し、九頭竜川が山間部から平野部へと流れて込んでくる位置にあたる東藤島近辺に着目して調査を行った。

周辺の地名を見ていくと、藤島、島橋町、玄正島町と言うように島という名が入り、河川の氾濫による地形が、地名へと反映されていると言える。また扇状地の特徴である湧水を利用していたことが考えられる泉田など地形が反映された地名が目についた。



発表を行う小林氏



発表を行う吉村氏(右)、講評を行う細谷氏(左)



発表を行う嶋田氏(右)、講評を行う中村氏(左)



講評を行う千谷氏



発表を行う嶋田氏(右)、講評を行う梅田氏(左)



発表を行う西谷氏(右)、講評を行う清水氏(左)



萬匠東亜男氏

【第四回NPO・REF談話会】
 第四回NPO・REF談話会が3月22日(水)にふくい県民活動・ボランティアセンター706会議室(AOSSA7階)にて行われた。
 講師の萬匠東亜男氏を招き、「マヤ・アステカ文明の地を訪ねて」をテーマに談話会が行われた。自身が実際に訪れたメキシコについての詳しい歴史や都市、遺跡などを説明したのち、マヤの歴と数字について報告された。
 (出席者11名)



総評を行う中村氏

☆入会のおしらせ☆ (敬称略)

《入会》

賛助会員 細江 雅希
 山田 将大

《退会》

正会員 渡辺 和幸

平成29年2月末現在
 正会員 71名
 賛助会員 32名
 合計 103名

【会費の納入について】

会費の納入をお願いします。

■年会費

正会員 … 12,000円
 賛助会員 … 3,000円

■会費納入先

《振込みの場合》

ゆうちょ銀行
 振替口座 730・3・20396
 福井地域環境研究会

※機関紙巻末の振込用紙をご利用ください。

《直接支払う場合》

総会、中間報告会、談話会等開催時、または、左記、財務幹事まで直接お支払いください。

【財務幹事】

〒910-8580

福井県福井市大手3丁目17番1号 9階
 福井県 土木部 河川課 河川整備グループ

清水 健

TEL 0776・20・0481

Mail t-shimizu-j3@pref.fukui.lg.jp